

2011 年度事業報告

1. 会誌の編集発行

第 65 巻、第 2 号～第 6 号および第 66 巻、第 1 号を編集し、発刊した。報文 13、総合論文 1、Short Paper 2、総説 2、解説 11、寄書 23、研究会だより 2、若手会報告 1 の計 55 件を掲載した。前付け・後付け会告を含め、総ページは 460 頁であった。なお、第 65 巻第 2 号から第 66 巻第 1 号における特集の企画テーマは、「製塩環境における腐食の機構解析と評価技術の開発」、「日本海水学会 60 周年記念 2011 年度 第 62 年会講演要旨集」、「森－川－海との共存・共栄」、「生活と水」、「60 周年記念特集」と「海水総合利用技術構築を展望して－リチウム等を例とした高度分離技術の展開－」である。

2. 年会総会・研究技術発表会の開催

平成 23 年 6 月 9 日(木)～10 日(金)の会期で、赤穂市文化会館ハーモニーホールにおいて第 62 年会総会・研究技術発表会を開催した。研究技術発表は口頭発表 24 件、ポスター発表 20 件であった。ポスター発表のうち 18 件が口頭発表との重複発表であり、11 件が 35 歳以下の発表者であった。60 周年記念講演会 3 件があり、130 名が参加した。また、学会賞 1 件、研究賞 1 件、技術賞 1 件、奨励賞 1 件および功労賞(田中賞)2 件の表彰を行った。

3. 西日本支部の活動

会誌特集号の企画

第 66 巻 5 号(西日本支部特集号)に向け、「西日本の海水科学(3)」の特集号としての企画を行った。

4. 研究会の活動

1) 電気透析および膜技術研究会

① 研究討論会の開催

平成 23 年 11 月 24 日、東工大 百年記念館、講演 6 件、参加者 21 名

② 第 42 回荷電膜コロキウムの開催

平成 24 年 3 月 23 日、東工大 大岡山キャンパス、講演 2 件、参加者 16 名

③ 幹事会の開催

平成 24 年 3 月 23 日、東工大 大岡山キャンパス

2) 海水環境構造物腐食防食研究会

① 第 51 回研究会・見学会の開催

平成 23 年 12 月 13 日、青山学院大 淵野辺キャンパス、講演 2 件、参加者 16 名

② 研究会会員増強活動

研究会ホームページの充実

3) 環境・生態系・生物資源研究会

① 復興！全国「塩」サミット in 宮城 塩竈での基調講演

平成 23 年 9 月 25 日、講演者：角田教授（研究会代表、石巻専修大）

② 塩シンポジウム（①の関連行事、日本海水学会 60 周年記念事業）の開催

平成 23 年 9 月 24 日、宮城県塩竈市

③ 講演会の開催

平成 23 年 10 月 3 日、香川県小豆郡(小豆島)、佐藤教授(島根大)の講演ならびに
地元食品企業との生物資源や地域活性に関する意見交換

④ 幹事会・活動検討会の開催

平成 24 年 2 月 27 日、東京

4) 塩と食の研究会

① 講演会・実習の開催

平成 23 年 12 月 2 日、きゅりあん(品川区) 実習：ソーセージ作り、参加者 23 名

② 情報誌の発行

第 8 号の発行

5) 分析科学研究会

① ミニシンポジウム・見学会の開催

平成 23 年 3 月 16 日、東京都立産業技術研究センター(江東区)

参加者 15 名

② ニュースレターの発行

第 12 号の発行

③ 幹事会・見学会の開催

第 14 回幹事会、山梨大学機器分析センター

6) 海水資源・環境研究会

① NEDO の技術委員会への参画

淡水化設備等から出る濃縮排水からの有用資源回収技術に関する調査

② シンポジウム(日本海水学会 60 周年記念事業)・見学会の実施

平成 23 年 8 月 24 日、(財)塩事業センター・海水総合研究所、参加者 77 名

③ ボトルネック対策技術分科会の設立

リーダー：市村准教授(神奈川工大)、目的：海水総合利用プロセス構築のボトル
ネックの解消

④ 幹事会・企画委員会の開催

平成 23 年 6 月 20 日、(財)塩事業センター本部

5. 各種委員会の活動

1) 編集委員会

年 3 回の編集委員会を開催した。第 65 巻、第 2 号～第 6 号および第 66 巻、第 1 号
を企画、編集、発刊した。会誌の電子ジャーナル化について検討し、J-STAGE シス
テムを利用して、第 63、64 巻を公開した。また、Journal@rchive システムを利用し
て、第 1 巻～第 62 巻を公開することとした。原稿の頁数、別刷り料金表の変更、論
文等を Web に掲載する場合のルール化を行い、投稿規程を改訂した。編集担当の役
割を統一するため、特集の提案から会誌の発刊までの編集担当の対応を時系列にま
とめた特集企画マニュアルを作成した。

2) 研究委員会

委員会において、各研究会の役員各位と研究会活動のさらなる活性化のための方策
について協議した。その結果、(1)研究会の活動内容を学会会員に広く知っていただ
き、また(2)新規の入会を促すことを目的に、海水学会ホームページ内に研究会のペ
ージ(<http://www.swsj.org/p11/framepage1.html>)を開設することとなった。24 年度のは
じめより、各研究会に、会の概要や入会の方法、最近の活動記録を、それぞれのペ
ージに掲載いただいている。また、同様の目的で、海水学会誌に「研究会だより」

のページを設けていただくこととなった。第 66 巻第 1 号から、毎号、2 つの研究会に持ち回りで会の概要や直近の活動、会員募集について執筆いただいている。

6. 若手会の活動

- 1) 「第 11 回若手の集い」の開催(実行委員長：中山由佳(塩事業センター))
 日時：平成 23 年 6 月 8 日
 場所：赤穂市ハーモニーホール内パティスリー・シェ・ザッコ
 内容：若手研究者・技術者の交流会
 参加者：38 名
- 2) 第 62 年会「第 2 回技術交流ポスターセッション」の開催(実行委員長：石井健(ナイカイ塩業))
 日時：平成 23 年 6 月 9 日
 場所：赤穂市ハーモニーホール
 内容：技術的な交流を目的としたポスターセッション
 発表件数：23 件
- 3) 「第 3 回学生研究発表会」の企画・開催(実行委員長：外輪健一郎(徳島大学))
 日時：平成 24 年 3 月 5 日、6 日
 場所：徳島大学工業会館ほか
 内容：学生による口頭・ポスター発表会、見学会(大塚製薬ほか)
 発表件数：口頭 18 件、ポスター 15 件
 参加者数：57 名
- 4) 第 62 年会「60 周年記念見学会」への支援(担当：外輪健一郎(徳島大学) 正岡功士(塩事業センター))
 日時：平成 23 年 6 月 10 日
 場所：(株)日本海水赤穂工場ほか
 内容：学会誌 6 号参照
- 5) 「海水資源・環境研究会企画 60 周年記念行事」への協賛
 日時：平成 23 年 8 月 20 日
 場所：小田原市民会館、海水総合研究所ほか
 内容：若手会の企画と内容が重複したため一本化して支援した
- 6) 海水誌「60 周年記念特集号」への寄稿
 石川匡子(秋田県大)「日本海水学会若手会活動記録と展望」
- 7) 役員交代 (任期：平成 23 年 7 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日)

氏名	所属	役職	
石川匡子	秋田県大	会長	
市村重俊	神奈川工科大	幹事	前会長
中山由佳	塩事業センター	幹事	第 11 回集い実行委員長、新任
松本真和	千葉工大	幹事	第 12 回集い実行委員長、編集担当
外輪健一郎	徳島大	幹事	第 3 回学生研究発表会実行委員長
石井 健	ナイカイ塩業	幹事	第 2 回技術交流ポスター実行委員長
正岡功士	塩事業センター	幹事	総務担当
長 秀雄	青山学院大	幹事	
赤松憲樹	工学院大	幹事	
岡田昌樹	日本大	幹事	新任
三角隆太	横浜国大	幹事	新任

8) 第7回役員会の開催

日時：平成23年6月9日(木)

場所：赤穂市文化会館ハーモニーホールロビー

9) 会員数(平成24年3月末現在)

57名(平成23年3月末より3名増)

7. 事務改善

ホームページ・学会誌を通じて、日本海水学会の企画行事、投稿規定などの最新情報の提供などの会員サービスに努めるとともに、事務局における事務処理の簡素化、マニュアル化を前年度に引続き進めた。

8. 会員異動

個人会員：入会 44名(正会員9、学生1、研究室会員34名)

退会 73名(21、22、23年度退会申出者及び除籍者：正会員68名、学生5名)

平成23年度末現在 358名

維持会員：入会 2社4口、退会 1社 2口

口数減：1社18口、平成23年度末現在 45社 351口